

新型コロナ「“空気” 感染する」…感染研が一転認定

[2022/03/31 10:03 配信]

東京都の30日の新型コロナウイルスの新規感染者数は9520人で、前の週の同じ曜日と比べ、3090人増えました。4日連続で、前の週の同じ曜日を上回ったこととなります。

■一転「“空気” 感染する」認定

そんななか、国立感染症研究所が、新型コロナに関する新たな見解を発表しました。

感染研はこれまで、新型コロナウイルスの感染経路として、くしゃみなどで飛び散った飛沫（ひまつ）による感染と、飛沫などに触れた手で鼻や口を触ることによる接触感染の2つを挙げる一方、ウイルスを含んだ空中の微粒子を吸い込むことで感染する「エアロゾル感染」を認めてきませんでした。

これに対し、長崎大学の森内教授ら専門家が、感染研の見解は世界の知見と異なるとして、公開質問状を発表しました。

すると、28日、感染研のホームページにひっそりと、「感染する。その経路は主に3つあり、(1) 空中に浮遊するウイルスを含むエアロゾルを吸い込むこと（エアロゾル感染）」と、感染経路のなんと1番目に、エアロゾル感染が挙げられていたのです。

長崎大学大学院・森内浩幸教授：「WHO（世界保健機関）でもCDC（疾病対策センター）でも、最初は『ない、ない、ない、ない』と言っていたのを、何段階か分けて、訂正してきたわけで。いつまでも、知らん顔というわけには、いかなかったということはあるだろう。事実上、厚生労働省でも、エアロゾルで感染が広がるんだということは出されているわけで」

森内教授は、感染対策として「部屋の換気」を求めているのが、エアロゾル感染を認めていた何よりの証拠だと指摘しています。

長崎大学大学院・森内浩幸教授：「日本は、役所に絡むようなところで出したのって、訂正しにくかったということなのか。何を今さらという気がするんですけど」

(テレビ朝日「グッド！モーニング」2022年3月31日放送分より)